



# ヘルスプロモーション イベントでのマラリア 予防啓発活動

報告：松本茜(青年海外協力隊)  
マラウイ  
ムズズ・アーバンヘルスセンター

バナーは当日会場に貼ってキャンペーン周知に使用。

任地のムズズ市内において、同ヘルスセンター配属の矢谷隊員と共にヘルスプロモーションイベントを開催。当日は200人近い地域住民が会場に足を運んでくれた。イベントでは体重身長血圧などの健康チェックや、マラリア、HIV/AIDS、栄養に関する健康教育を実施。マラリアに関しては演劇、ヘルストーク、蚊帳アンケートの3つを実施した。

## 演劇



CBO(Community Based Organization)の若者たちによるマラリアをテーマにした演劇を上演。ストーリーは彼ら自身が考えたもので、観客は蚊帳の正しい使い方などのマラリア予防法について楽しく学ぶことができた。

## ヘルストーク



現地語に通訳してもらいながら健康教育を

実施。内容はマラリアの原因・症状、高リスクグループ(5歳未満の子ども、妊婦)、予防法について。こちらが話すだけでなく質問形式にすることで、観客を巻き込めるよう心がけた。

## 蚊帳アンケート



丸型(1点吊り下げ)、四角型(4点吊り下げ)、テント型の3つのうち、どのタイプの蚊帳を使いたいかわりにアンケートを実施。会場では実際に蚊帳の展示も行った。結果は丸型が一番人気が、「取付がシンプルで使いやすいから。起床後は縛ってまとめておけるから。」などの理由が挙がった。アンケート実施の経緯：マラウイでは数年に一度の頻度で、全国規模での蚊帳の一

斉配布が行われている。しかしコミュニティを回ると、多くの家庭で蚊帳が畑の柵として使われている光景を目にする。正しく使用しない理由のひとつに配布される蚊帳のタイプと住民ニーズのずれもあるのではないかと考え、今回このアンケートを実施した。引き続きヘルスセンターでもアンケートを実施し、より多くの人の回答を集める予定。

任地のムズズでは、マラウイ政府による蚊帳の一斉配布が11月に予定されているので、正しい使い方についての啓発活動や配布後のフォローアップを実施していく予定。

## キャンペーンロゴのピンバッジ配布

Malaria No More Japanから提供して頂いたピンバッジは、ヘルスワーカーなどに配布。コミュニティレベルでのマラリア啓発活動の要である彼らに、普段から身につけて業務に取り組んでもらっている。

